



News Letter

No. 23

2007年2月1日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17 403

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8590 FAX 03-3530-8578

レイバーネット日本 7年目を迎えて

「労働ビッグバン」に反対する情報発信基地に

伊藤彰信（レイバーネット日本代表）

レイバーネット日本が2001年に結成されてから、早いもので6年経過しました。当初目標とした会員300人を昨年末に達成することができました。通算アクセス件数はもうすぐ100万件に達します。現在毎日1500件のアクセスがあります。1年前と比較するとアクセスは倍増しました。

昨年春のサウンドデモ弾圧事件、そして夏のヤスクニキャンペーン、秋の教育基本法改悪反対闘争など映像を含めた速報は、マスコミがほとんど取り上げないなか、リアルな現場報告として大きな役割を果たしたと思います。

今年の課題は、労働運動の現場から、写真・映像と記事を速くアップロードできる能力と体制を高めることです。特に、労働法制の改悪は、運動にとって大きな問題です。ホワイトカラーエグゼンプションは法案提出を見送るようですが、法案作成は行われます。労働時間規制の適用を除外する管理監督者や、裁量労働制の対象者の拡大を図ろうとすでしょう。使用者が一方的に決める就業規則を労働契約とする労働契約法制の制定を図ってくるでしょう。これらは、残業代を払わず賃金を抑制し、労働条件の不利変更を容易にする手続きをつくるのが目的です。派遣労働者や有期雇用労働者の正規雇用化を拒み、固定化しようとしています。さらには、「偽装請負」を「合法化」しようとしています。

レイバーネット日本は、このような労働法制の大改悪である「労働ビッグバン」に反対するたたかい

防衛省へ昇格



「海外活動が本来任務になりました」

牛山共 http://www.geocities.jp/ushi_web/

の情報発信基地にならなければなりません。そのためには会員を拡大し、労働運動の現場に入り込み、現場から主体的な発信ができるようにすることです。レイバーネット日本がまさに労働運動の情報ネットワーク機能を果たせるかどうか問われると思います。会員の皆さんの一層の協力をお願いします。

レイバーネット日本2007 総会 & イベント

全面的な労働市場の規制緩和に対応した労働法制の改悪が進められようとしています。「何が変えられようとしているのか」「どのようにたたかいを組めばいいのか」など、自由で率直な議論をする機会になればと思っています。改憲・労働法制など今年は、本当に正念場です。総会では、この1年間の活動を振り返りつつ、どのような情報発信・活動が可能なのか大いに議論しましょう。

二部の特別イベントには、現場の実態に詳しい「労働基準監督官」、そして運動の渦中にある「共同アピール」事務局が参加します。

日時：2007年2月11日（日）13:30-17:00

場所：飯田橋SKプラザ地下ホール
（飯田橋駅東口5分）

参加費：会員無料（会員外500円）

第一部・総会 13.30 ~ 14.50（13時開場）

年次報告とディスカッション

第二部・特別イベント 15.00 ~ 17.00

「労働法制～何が変わるのか」

講師：丹野さん（労働基準監督官）

岡本哲文さん（「共同アピール運動」事務局）

* 関連映像も流す予定
* 特別イベントは会員外にも公開です。お誘いあわせの上、ご参加ください。
懇親会あり。



レイバーフェスタ 2006 日本の現実と向き合う文化運動

清水直子(出版ネッツ)

映像や音楽を通じて、身近な労働や生活を見つめ直す労働者のお祭り、レイバーフェスタが12月17日、東京ウィメンズプラザで行われ、181人が参加した。

5回目の今年は、午前の部で、ドキュメンタリー映画『出草之歌』(井上修監督)を上映。第二次世界大戦下、日本軍に動員された先祖の霊を靖国神社に祀らないよう裁判で争っている、台湾の原住民の闘いを追った作品だ。立法委員(台湾の国会議員)でもある高金素梅さんの毅然とした姿と、映像中に登場する伝統的な歌声が印象深い。

午後からの音楽の部では、国会前など運動の現場で歌っているヨッシーとジュゴンの家の3人が、「ファシスト安倍政権を倒そう」などを披露。音楽批評家集団、DeMusik Inter. (デムジーク インター)の大熊ワタルさんと二木信さんによるレイバーソングDJでは、昨年に続いて労働運動歌を再生させるべく注目曲を紹介。

さらに、「ノレの会」と韓国山本労組による歌とユルトン(律動)に続き、70年代の国鉄闘争で歌われた「闘いはいつも」が紹介され、会場の参加者と歌った。

映像紹介の部では、特別上映として『すべて消える』(フランス作品・ジャン＝マルク・ムトゥ監督)と『労働者は奴隷か! ~住友大阪セメント残酷物語』(全日建運輸連帯労組制作)を上映。

続いて3分間の自主制作ビデオ22本を一挙公開。フリーター全般労組などが呼びかけ逮捕者の出た「自由と生存のメーデー06」の反撃デモを収録した『やられたままでは黙っていない』(小林アツシ)業務請負会社の派遣労働者たちが、派遣、偽装請負、期間工の全国的な連帯を呼びかける『ガテン系連帯登場』など、不安定雇用の若者の声を伝える作品が目

立つ。

出演者や展示協力者が独断と趣味で選ぶ賞も贈呈された。井上修監督の『出草之歌』賞は、『場所を空ける!』(都庁行動を闘う全野宿労働者実行委員会)。

もとは警察の弾圧対策の映像で、「これを撮ろうと狙って撮っていない、私の好きなドキュメンタリーのスタイル」(井上監督)。

ヨッシーとジュゴンの家賞は、会社で「当たり前」として押し通される不払い残業を「おかしい」とユニオンに相談し、交渉によって職場を変えるシミュレーション『ユニオンがあればこうなる』(均等待遇アクション21)。ムキンボ賞は、『場所を空ける!』と自らのアルバイト経験を淡々と語って収録し、「これなら自分にも作れるのではないか」と参加者に思わせ来年度の応募作品増に貢献したであろう『プレカリアートな日々』(攝津正)に贈られた。

韓国山本賞は、「闘いの状況が似ている」として『京ガス闘争100日』(但馬けい子・遠藤礼子)に。フェスタ実行委員長賞は、今年3月に公立小学校を退職し教育基本法改悪に反対する国会前の闘いを毎日映像で伝えた作者の『学校を辞めます~51歳の僕の選択』(湯本雅典)だった。

(*レイバーネット日本サイトの報告抜粋)



ひと味深まった大阪のレイバーフェスタ

ラップ、レイバー替え歌 新趣向と3分ビデオの充実

「レイバーフェスタ2006 OSAKA」が12月9日、大阪で開かれ、会場の「エルおおさか南館」には昨年を越える120人が集まった。

今回はじめて公募した「レイバー替え歌」の発表、島唄「均等の風よ吹け」など3曲をアコーディオンの伴奏つきでみんなで歌った。音楽プログラムの2番目はベトナム少年ナム君が自作のラップを歌い踊った。日本社会における在日ベトナム人のアイデン

ティティを追求する内容で、参加者に強い印象を与えた。

メイン映像として、ケン・ローチ監督の『ブレット&ローズ』を上映し、暗がりの中で思う存分泣いたという人もいた。

しめくくりは関西の3分間ビデオ、一昨年の6本から昨年の8本、そして今年は10本と本数が増え、内容も。ドラマあり、アニメあり、ドキュメンタリーありで、見ごたえのある作品が多かった。特に、事業廃止を通告された労働者の闘いを描いた「京ガス闘争100日~ついに職場占拠へ」は、親会社への激しい抗議行動や団体交渉を記録したもので、上映のあと、映像に登場した労働者たちが会場で一人一人あいさつし、激励の拍手で迎えられた。

大阪のレイバーフェスタも今回で3回目、ラップや替え歌の登場に加え、3分ビデオが好調で、来年こそは自分も作ってみるぞ、と意気込む声も聞かれた。

小山 帥人(*報告抜粋)



レイバーネットの報道について(その3)

記事は「主観的」に書け!

松原 明

昔は、記事を書くときは「客観的に」ということが要求された。5W1Hともよく言われる。集会報告記事で多いのは、集会の発言内容を羅列的に要約して紹介するパターン。情報としては有益なのだが、面白くないものが多い。それよりも、その記者が「集会で一番よかった話はこれだった」とか「じつはこんなことがあった」とか、記者の本音(「これがつまらなかった」とか)が出ている記事が、印象に残る。一般的に伝えようとするのではなく、記者がその出来事のポイントを「主観的」に受けとめたものを大事にしてほしい。

こう強調するのは、ネット報道だからである。活字媒体の報道では、報告を書くのはだれか一人であり、その人が代表して書くことになる。そうなるとやはり「客観性」「全体性」が求められる。ところがネット報道では、一つの事柄を複数で報道することができるので、主観報道でもOKなのだ。同じ集会デモの

報告が10あってもいい。むしろ多ければ多いほど多様に伝わり、読み手はその中から、豊富な全体像をつかむことができる。レイバーネットの報道は、自ずとそうなってきた。だから、大きなイベントがあると、報告記事・感想・写真・動画がいくつも載ることになる。

もうひとつ。ネット報道の力は「速報性」だ。だから、すぐに長いものを書こうとしないで、まず「どうだった」という200字くらいの短いものを書いて流し、それから時間をおいて記事をふくらます、という方法を使うといい。私はこのやり方をよくやる。取材から帰ってきたら、まず写真一枚とコメントだけアップする。あとはゆっくり考えるわけだ。1日延ばしていい。そうすると報道することの負担感が少なくなり、結果的に長続きすることにもなる。

(レイバーネット副代表)

驚きと感動

動画を流すことができた!

湯本 雅典

私は今回、教育基本法改悪反対の国会前の大きな動きを中心に動画を何本かレイバーネットで流して頂いた。生まれて初めての経験である。

何とかしたかった!というのが動機である。でも何ができるのか?考えあぐねている時に思いついた。これだったら、私にもできるんじゃないか?

まず覚えたのが、動画の圧縮のしかた。ファイルをAVIからWMVに変換する。思いのほか簡単だった。少し手間取ったのが、速くサイトに送ること。しかしこれも、メールに添付すれば簡単にできた。

後は、国会前などの「現場」での取材。とにかく撮りまくった。インタビューし、参加者の声を集めた。ネットに載せる了承を得るために、話し込んだ。その中で、自分が運動の輪の中にどんどん入っていることが実感できた。本当に、初めての経験である。

マスコミは、全く反対運動の実際を伝えない。裏で申し合わせでもしているかのよう。取材をすればするほど、国会前の「現場」と生活の「現場」との乖離を感じた。この乖離を何とかして埋めたい。こ

の気持ちで、次の取材に自分を向かわせた。仕事を持っているので、大変ではあった。しかし、強行採決の最大の山場では、そんなことも言っていられなくなった。



取材中の筆者

ネット配信は、予想以上の影響力がある(実際、反響も大きかった)と同時に、撮っている自分を変えていく。撮影技術だけでなく、撮る側の構え - 自分が広げているという姿勢が身につく。次も、絶対に負けない闘いをもっと支えよう!と動き始めているところだ。

(レイバーネット記者)

「2006レイバーフェスタ(東京)の参加者アンケートが総数37通集まった。その結果をダイジェストすると。

フェスタを何で知りましたか? インターネットやML・13人、知人からの誘い・11人、チラシ・7人

どの企画が良かったですか? 3分ビデオ・30人、「労働者は奴隷か」・18人、「出草之歌」・17人

3分ビデオでおもしろかった作品 素晴らしき新世帯・28人、教育基本法を変えないで・22人、

ユニオンがあればこうなる・21人、JR職員のなげき・21人

感想(抜粋) 「出草之歌」大変感激しました。動画を使わない動画、ドキュメントフィルムの構成で一編の作品にした工夫に敬意を表します。(「戦争-ケーテ・コルヴィツ木版画連作」について)

手作りの良さがよく表れた運営だったと思います。レイバーソングD」が良かったです。大阪の作品はおしなべて悲惨な中にもユーモアがあり、面白かった。内容はとてもいいのですが、参加者が少ないのが残念。3分ビデオはひとつも×がなく、とてもおもしろかったです。

< 文化情報 >

『君が代不起立』

全国草の根上映運動がはじまる

「君が代」強制に反対し、戦争への道に抵抗する教員たちを描いたドキュメンタリー映画『君が代不起立』が、卒業式シーズンにあわせて全国草の根上映運動が展開されている。2/10堺・2/11大阪・2/12神戸・2/18名古屋・2/18長崎・2/23東京・2/24京都など。詳細はビデオプレスのホームページ (<http://www.vpress.jp/>) へ。

韓国ドキュメンタリー映画祭

2月10日(土)9時半～
豊島区民センター音楽室(5階)

資料代 1500円

9時半～「あんにょん・サヨナラ」

12時～「テチュリ村の戦争」

13時～「続く」

14時半～「塩」

15時40分～「バスに乗ろう」

17時30分～監督を交えたワークショップ

韓国では、市民がインターネットや他のメディアを通じ、大手メディアの報道にも負けず劣らず世論を支えています。今回の映画祭は、「女性」「移住労働者」「障害者」の分野を取り上げ、監督を招聘してワークショップも開催します。

問い合わせ アジアメディアセンター準備会
TEL 03-3835-3747

映画『移民の記憶』日本語版が完成

フランスで大ヒットしたドキュメンタリー映画『移民の記憶』(2時間40分)が、レイバーネット会員などの努力により、日本語版が完成した。この作品は、フランスの社会問題である移民の歴史を鋭く捉えたもので、パリ郊外暴動などの背景にも迫る。また資本主義の本質を描いていて、この映画から日本の姿も見えてくる。各地での自主上映が期待される。問い合わせ Kyuri712@yahoo.co.jp 久保田

レイバーフェスタ3分ビデオ各地で上映

好評だった3分ビデオが今年も各地で上映される。3月4日の「女たちの祭」(東京ウィメンズプラザホール)では、「ケーテ・コルヴィッツ木版画連作」「教育基本法を変えないで」など6本が。また3月のビデオアクト上映会では、木下昌明さんの連作「娘の時間」「息子の場合」「3分間の履歴書」が上映される。

『鉄条網に咲いたツルバラ』

2月末に発刊

韓国の軍事政権下で民主化のために闘い生き抜いた8人の女性たちのインタビューをまとめた『鉄条網に咲いたツルバラ』(同時代社刊)が2月末に発刊される。

彼女たちの不屈のたたかいが、いまの発展する韓国民主労働運動の基礎をつくった。活動家必読の書だ。

翻訳本は320頁で2500円。

「ツルバラの会」では賛同と普及を呼びかけている。03-3814-3795(平日昼間・古田)



< 新入会員紹介 >

漫画でたたかう

牛山 共

昨年よりレイバーネットに漫画を掲載していただいております。子どもの頃、漫画『はだしのゲン』やアニメーション『ピカドン』などを観て、戦争は恐ろしいものだ、絶対してはいけないものだ、という



気持ちを強く持ちました。その恩返しとして、安倍政権となった今、自分にできることの一つとして漫画を描いております。

ここ数年、書店には歴史事実を歪曲したり排外的なナショナリズムを煽るような漫画が平積みとなっており、若い人たちにもよく売れているようです。漫画の影響力は侮れないと思います。この勢力に負けないよう、がんばりたいと思います。まだまだ画力・表現力の拙い自分ですが、今後ともよろしくお願い致します。

レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合で個人で全国にアピールする絶好の場所です。
年会費 3,000円

郵便振替 00150 2-607244 レイバーネット日本
郵送宛先 〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17 403
レイバーネット日本事務局
入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8590 ファクス 03-3530-8578